



応募名称

ポテト皮の液状飼料化で 高度なゼロエミッションを実現

会社名、事業場名

ケンコーマヨネーズ株式会社

東京都杉並区 / <http://www.kenkomayo.co.jp/csr/eco>

■ 具体的な取組内容 ■

国内初！「ポテトピール」の液状飼料化

ポテトサラダの加工工程にて発生するじゃがいもの皮の量は約 10 ～ 20%。その皮は、温度を 30 ～ 40℃ 保有し、水分を大量に含むので、腐敗が早く、悪臭の原因となるため、これまでは産業廃棄物として堆肥などに再利用していました。しかし、じゃがいもの皮は食せるものであり、皮に含まれる栄養成分の高さや液状飼料の価値の高さ、低エネルギーコストでの飼料化が可能であることから、ヨーロッパ各国ではすでに液状飼料が定着し実績が豊富でした。

このような背景を受け、2009 年 12 月より当社ポテトサラダ工場（西日本工場）にて、国内で初めて、ポテトサラダを生産する工程に発生するじゃがいもの皮等の「ポテトピール」を有価飼料として再生する液状飼料化の取組を開始しました。

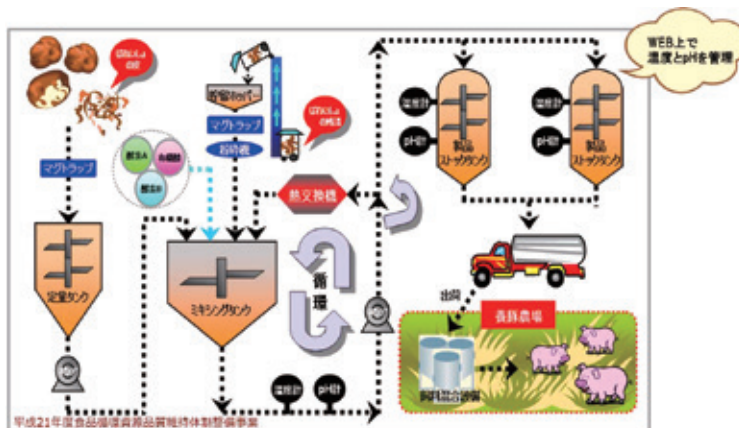


産業廃棄物であった「ポテトピール」をビジネスチャンスに！

液状化飼料の製造工程

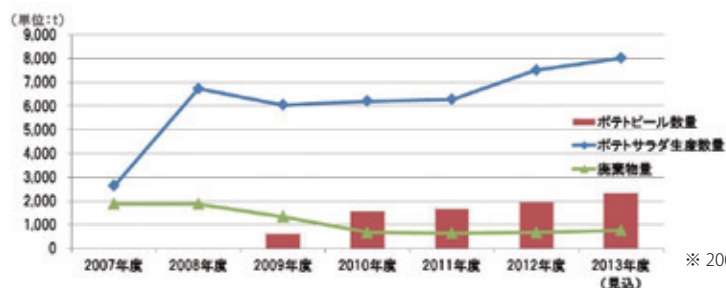
飼料も『製品』という強い信念をもち、徹底した管理を実施しています（右図）。液状化飼料は養豚農場へ出荷します。

→ 液状化飼料製造量：約 160 t / 月
(2012 年度実績)



ポテトピール事業による効果

ポテトサラダを製造するにあたり、ポテトピールの発生量が 1 日当たり 2,240kg であり、ポテトピールを液状化飼料にすることにより、産業廃棄物量は年間約 1,200 t の削減となりました。また、2008 年度比で 2012 年度の生産数量は +111.7% に対し、廃棄物量は Δ 64.1% となり、廃棄物量の削減に大きく貢献しています（下図）。



※ 2007 年度実績は 10 月～となります。

■ 評価 ■

ポテトピール（じゃがいもの皮）を自社敷地内に設置した設備で液状飼料化し、廃棄と比べて大きな経済的効果を得ている。食品工場で多量に発生する端材であるポテトピールを、再生利用等の中でも優先順位の高い飼料化により有効活用している点を評価した。波及効果が期待される。